

かごしま

市民のひろば

1 / 1

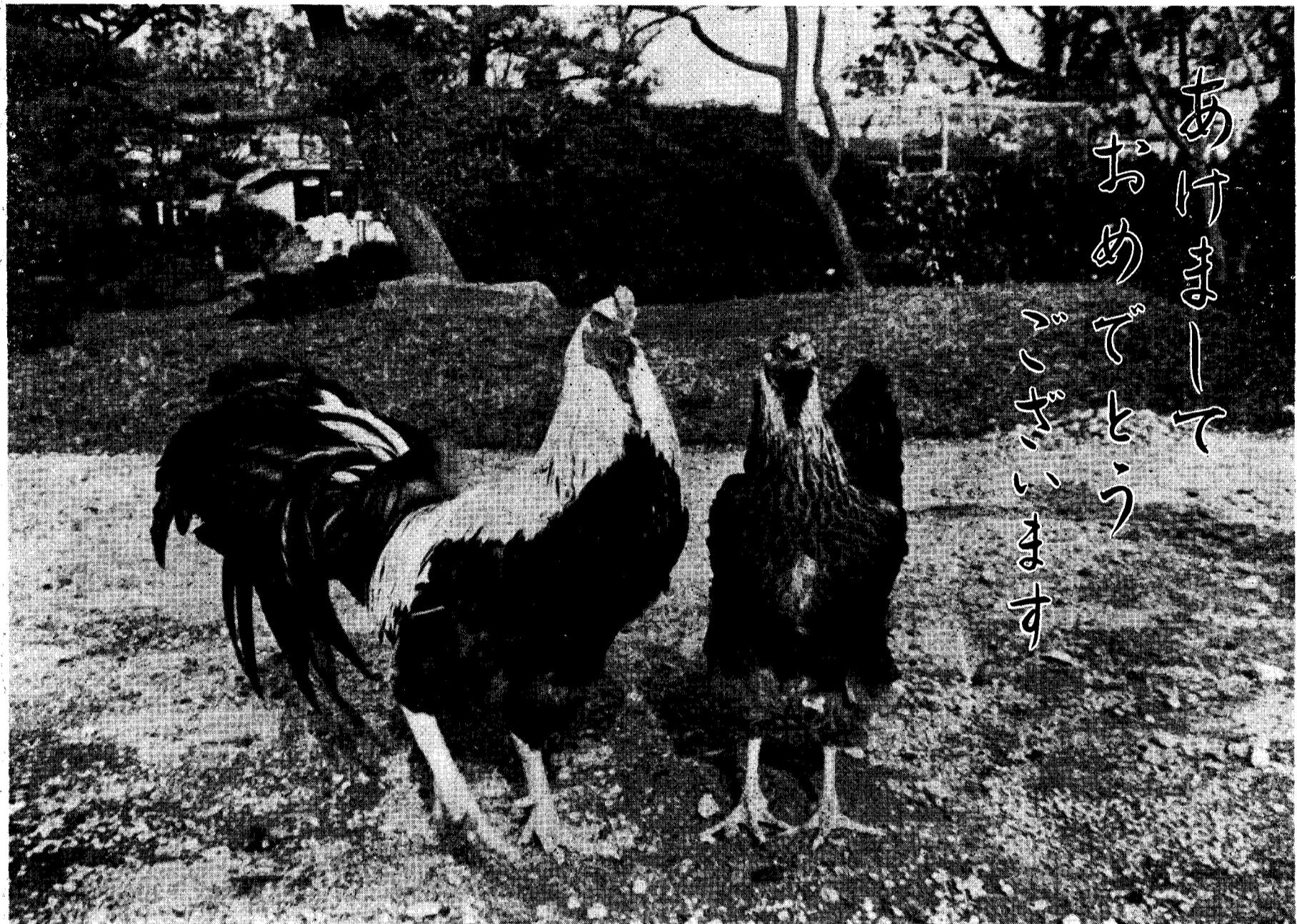
No.20

編集と発行 鹿児島市広報室

鹿児島市の人口（推計）396,247人 (男186,491人 女209,756人) 116,251世帯 (43.12.1現在)

市政五つの柱

- ◎ 市民生活の環境整備
- ◎ 子供とお年寄りを大切にすること
- ◎ 市民性を高める教育文化の拡充
- ◎ 市民生活を豊かにする産業振興
- ◎ 南九州の中心都市としての機能整備



市議会議長

演年四百

昭和四百年元旦

心からお喜び申上げます

昭和四百年。布葉に幸い新年
皆様ともよしむ迎えでります

謹賀新年



市長
吉川

新しく御年号を以て始めて
一年、努力と努力とをめざします
如何に高め之を

吉川

きれいな無駄のない仕事を



洋服店員 桜田英夫(平之町)

洋服屋を一生の仕事と決めて郷里を出てから、ことしで四年目を迎えることになります。この間、いろいろと失敗や苦労もありましたが、これを乗り越えてこそ腕も伸びたのだと思って頑張ってきました。洋服ができ上ったときの喜び、それも気に入ったものができたときの喜び、それが喜ばれるときほど愉快なときはありません。ことしは見習い最後の一年ですので、さらに工夫し能率的に、きれいな無駄のない仕事ができるように、信念と根性をもって頑張らうと思います。

また、私は二年半ほど前から健康と根性づくりのために、毎朝六時半起床して城山登山を続けています。早く朝登山をする人は意外に多く、お互いに笑顔であさつを交わしますが、ほんとうに気持ちのよいものです。ことしも、さらに続けたいと思います。

それにもう一つ。いつか読んだ本に植物は地上よりも地下の方に力を入れる」ということが書いてあります。そこで、ことしは一ヶ月に一冊の単行本を、それも良書を選んで読むようにしたいと思っています。

計画性のある農業経営を



市農業青年同志会員 秋広キミ子(中山町)

農業という職業について五年目。高校を卒業した当時はサラリーマンにあこがれしていましたが、月日がたつにつれて農業の良さというものがわかつきました。農業といふも、とてもいい気分がします。農業といふも、とてもいい仕事のように見えます。しかし、士とたかい自分で手にかけて丹精したものを受け取ると喜びは、またひとしおです。ことしも、自分の仕事に誇りをもつて、計画性のある農業経営を行なっていきたいと思います。また、家族会議などを通して円満な家庭生活を営めるよう努力したいと思います。

ところで、この機会に希望を二、三つは「ちびっこ広場」のこと。中北部だけでなく、農村部の子供にも与えてやってほしいと思います。また土地を高度に利用するための指導をしてほしいということ。先日、山形での農村青年の集いに参加したとき、まず驚いたのは、市郊外の広い農地がすみずみまで高度に利用されていることです。それから、とかく過大宣伝されている農村後継者の問題、嫁姑の問題などももう少し眞実の姿をとらえて指導してほしいと思います。

夫婦で奉仕の競争を



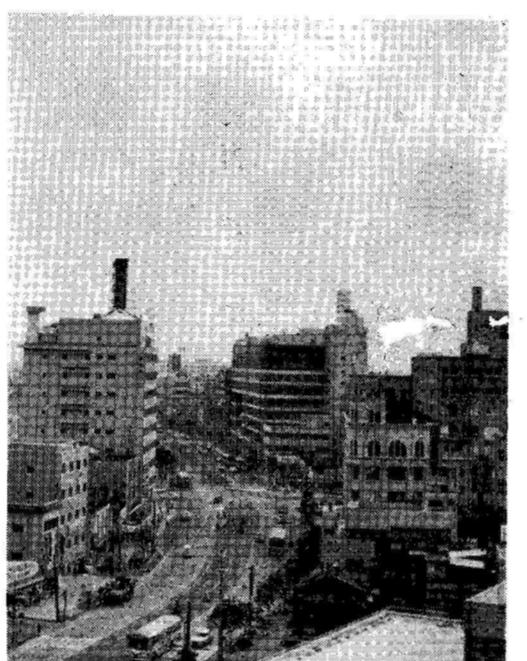
田中宇都長寿会長 豊増栄次(小野町)

古稀を過ぎ、子供を独立させ、再び夫婦きりの生活に返った私どもは、新年を迎えて、これからがほんとうの奉仕であると希望に燃えています。現在、私は、ある会社の役員と田中宇都長寿会の会長を兼ねています。宇都長寿会の会長を仰せつかり、その仕事を通じて思い切りご奉仕するよう激励しています。二人で奉仕の競争をしているようですが、幸い二人とも大元気ですので、この一年間、精一杯働いて悔を残さないようによろしく思います。

日本の経済は高度成長を続けていますが、その責任者が嘗めしてくださるよう、朝夕、神仏に祈つておられる次第です。

新しい年を迎えて

私の抱負



あけましておめでとうございます。今年は市政にとっても非常に大切な年…与次郎ケ浜の利用計画をはじめ都市再開発、国体開催の準備など一連の建設整備計画も、いよいよ具体的に進み始めることになりましょう。人口も年内には四十万人を突破、五十万都市にさらに一步近づくことになります。

さて、新しい年を迎え、みなさま、くらしに仕事に、それぞれ抱負をお持ちのことと思いまして、今号は六人の市民の方と末吉市長に登場いたしました。

兄弟げんかをしないこと



原良小5年 酒匂邦子(原良町)

わたしは、今年次のことをしっかりと守り切っているように努力しようと思っています。
①兄弟げんかをしないこと
②おつだいをしっかりとすること。
わたしは、「けんかをしないようになりますが、なかなか思うように守れません。ちょっとしたことで、すぐけんかになってしまいますのです。今日は、あまりいい気持ちがしません。だから、少しのことでおつだい手出したりしないように、一日一日気をつけていこうと思います。

次に、お手伝いのことです。

わたしは、ふとんの上げおろしだけは、よく守っています。でも、寒くなると、お使いをしたくなりなり、母の言うことをきかないことがあります。

わたしは、母の仕事があまり多くなってしまいます。だから、こんどから、母や父の言うことは、必ずきこうと思います。

また、もしできたら自分から進んで手伝いができるように、努力するつもりです。

市民に密着した活動を



青年会議所理事長 北元康太郎(松原町)

私たちの鹿児島青年会議所は昭和二十九年五月、「明るい農かな社会を築きあげよう」と青年同志が相集い結成しました。以来十五年間、青少年関係事業(奨学生制度、善行兒童表彰など)、社会福祉事業、文化事業、県政市政懇談会など地域社会の開発に微力ながら努力を続けてきましたが今年からは、さらに市民に密着した活動を進めていきたいと考えています。今後、鹿児島の明るく住みよい鹿児島市を建設するためには、お役所にまかせてなく市民一人一人が自覚し、真剣に考えて市政に参加すべきです。私たち会員も市民のみなさんといっしょに一市民としての意識のもとに、市政について話し合い、行政に対する積極的運動を展開したいと思います。また、家庭にあっては「親子の対話」を行ない、健常な体と健全な精神を持つ人間形成に努力し、輝かしい二十一世紀の青年会の担い手を育成しようと努めます。これまで、市政の一つ一人が自覚し、真剣に考えて市政に参加すべきです。私たち会員も市民のみなさんといっしょに一市民としての意識のもとに、市政について話し合い、行政に対する積極的運動を展開したいと思います。また、家庭にあっては「親子の対話」を行ない、健常な体と健全な精神を持つ人間形成に努力し、輝かしい二十一世紀の青年会の担い手を育成しようと努めます。最後に市への要望を一つ。将来六十万都市を自負する大鹿児島市の羅針盤がまさに精神を持った人間形成に努力し、輝かしい二十一世紀の青年会の担い手を育成しようと努めます。我々市民の安全航海のために、市の長期ビジョンを一日も早く打ち出してくださいたいものです。

対話を通じ市政発展に努力



市長末吉利雄

昨年は鹿児島市政の長い歴史の中でも、最も多事多難な年であったと思います。合併二年目と二年目に当り行政の一体化をどう進めていくかという中で、谷山地区市民の期待に応えるもの一つとして、ゴミの定期収集を実施してきたことは、合併とともに多くの市政の前進であったと思います。その他、敬老バスにしても、ちびっこ広場の建設なども、私の念願ではあります。また、赤ちゃんブランコや市木・市花の制定においても、私の念願ではあります。それでも、私の軌道に乗った年であったと言えます。その後、赤ちゃんブランコを踏み出すことができた年でした。市政は市民の日常生活にびつとも、私の日常生活にびつとも、将来的には一応の軌道に乗った年であったと言えます。また、赤ちゃんと一緒に乗った年でした。

市政は市民の日常生活にから着手している西駅周辺の再開発、鹿児島を中心とした上町地区の発展策、与次郎ケ浜の利用計画策定など、ともに行政の一体化をどう進めていくかという中で、谷山地区市民の期待に応えるもの一つとして、ゴミの定期収集を実施してきたことは、合併とともに多くの市政の前進であったと思います。その他、敬老バスにしても、ちびっこ広場の建設なども、私の軌道に乗った年であったと言えます。また、赤ちゃんと一緒に乗った年でした。

マイホーム主義からの脱出



主婦羽生敏子(吉野町)

ここ数年、マイホーム主義全盛の世の中になってしまった。我が家は無事安泰を願うのではなく、それが子供にも反映してか、つかい希望を持つ子、スケールの大きな子は、だんだん少なくなる現象を呈しています。
そこで、私は、この「マイホーム」から一步足を外に踏み出し、目を社会に向けて行きたいと思います。
今年、ぜひやりたいことの一つに社会奉仕の一つ盲人にに対する点字翻訳があります。主婦は、だんだん少なくなった、「大きくなつたらサラリーマン、お嫁さん」というがごとき、いささかわらへ歩足を外に踏み出し、目を社会に向けて行きたいと思います。
生まれではあります。私が家の無事安泰を願うのではなく、その時間の一部をさき、点字翻訳によって盲人の方々にも読書の喜びを分かちたいと思うのです。これは健康な者のそれから抱負というには少々大きげですが、「かしこい消費者」になりたいと云うこと。
生産者や企業の宣伝攻勢の前に、私たち主婦は、全くの無防備の状態におかれています。そのため、自分が「かしこい消費者」になりたいと云うこと。
今年、ぜひやりたいことの一つに社会奉仕の一つ盲人にに対する点字翻訳があります。主婦は、だんだん少なくなった、「大きくなつたらサラリーマン、お嫁さん」というがごとき、いささかわらへ歩足を外に踏み出し、目を社会に向けて行きたいと思います。
生まれではあります。私が家の無事安泰を願うのではなく、その時間の一部をさき、点字翻訳によって盲人の方々にも読書の喜びを分かちたいと思うのです。これは健康な者のそれから抱負というには少々大きげですが、「かしこい消費者」になりたいと云うこと。
生産者や企業の宣伝攻勢の前に、私たち主婦は、全くの無防備の状態におかれています。そのため、自分が「かしこい消費者」になるべく、大いに学びたいと思います。

